

議 事 録	
会 議 名	令和 8 年度 第 1 回 教育課程編成委員会
日 時	令和 8 年 9 月 1 7 日（木） 1 5 : 0 0 ～ 1 7 : 0 0
場 所	中央工学校 O S A K A 1 号館 3 1 ・ 3 2 教室
参 加 者	[委 員] (敬称略) 金沢 ちかこ、宮田 哲、田鍋 稔、田中 由之、岩尾 美穂 [関係職員] 中村 聖吾、原 充介、中島 征治、 檜崎 悟志（司会）、太田 育子、篠崎 潤一、豊田 昌代 北村 昇大朗（記録）、福島 貴子（写真）、谷村 友紀奈 平上 秀明、諸岡 邦行、上本 佳直
内 容	1. 開会の辞 司会の檜崎教務室長が開会を宣言し、令和 8 年度第 1 回教育課程編成委員会が開会した。 2. 校長挨拶 中村校長より、職業実践専門課程の認定要件に基づき、企業・業界等の外部委員と連携して教育課程を編成し、その意見を教育活動及び学校づくりの改善につなげる本委員会の趣旨について説明があった。 本委員会は年 2 回以上開催するものであり、今年度は例年より開催時期を早め、前期の教育内容を振り返った上で、委員からの意見及び助言を可能な範囲で後期の教育活動へ反映する方針が示された。 ・学校運営及び行事関係 ・ 4 月 8 日（水）、大阪ガーデンパレスにおいて第 4 6 回入学式を実施し、新入生を迎えた。 ・ 4 月 2 1 日（火）～ 4 月 2 5 日（土）、建築系新入生を 2 グループに分け、長野県軽井沢研修所において各 2 泊 3 日の軽井沢合宿研修を実施した。中央工学校グループが掲げる人間涵養教育を具体的に実践する機会として位置付けている。

	・ 5月8日（金）、卒業学年を対象とした合同企業説明会を千里ライフサイエンスセンターで開催し、合計46社が参加した。 ・ 7月27日（月）～30日（木）まで前期定期試験を実施した。研究科を除く昼間3学科は、8月1日から31日までを夏季休暇とした。 ・ 9月1日（火）に授業を再開し、定期試験の返却・解説・復習並びに実習・演習科目の課題の最終提出を行った。 ・ 9月9日（水）～14日（月）まで前期追試験を実施した。試験及び課題提出等の状況を踏まえて前期成績を評価し、9月29日に前期成績会議を開催する予定である。 ・ 転科について 建築学科、住宅デザイン科及びインテリアデザイン科では、1年次前期に共通科目を学び、後期から学生の適性や興味に応じて学科を選び直すことができる転科システムを導入している。今年度は住宅デザイン科から建築学科へ1名が転科した。 以上の学校運営状況を踏まえ、実際の教育内容、前期の学生作品及び教材を確認した上で、各委員の立場から忌憚のない意見及び助言を求めたいとの挨拶があった。 続いて、檜崎教務室長より配付資料の確認が行われた。 3. 各学科の教育について 教育基本方針について（教育室長 中島征治） 令和8年度教育基本方針に基づき、建築系教員業務の合理化を進めながら、教育内容及び教育環境の向上を図るとの説明があった。次年度に向けて、学科改編、カリキュラム、教員体制及び施設設備の見直しを進める。 一級・二級建築士試験の指導体制を充実させ、合格率の向上と質の高い授業の提供に取り組む。 ・ 休学・退学防止策の検討 令和7年度入学生から、株式会社進研アドが開発した入学前教育プログラムを導入し、入学前の基礎学力及び学習状況を把握して、入学後の指導につなげている。 今年度は入学時にYG性格検査を実施し、学生の性格特性を把握
--	---

	して、休学・退学の防止に生かす取組を開始した。 また、今年度より学生相談室を開設した。月1回カウンセラーが来校し、学生が担任以外にも相談できる環境を整えている。 ・内部進学者の増加の促進 建築学科及び住宅デザイン科から研究科への内部進学 of 促進に努める。 建築学科及び住宅デザイン科の学生のうち、半数程度が研究科へ進学することを目標とし、1年生の10月から進路ガイダンスを開始する。二級建築士取得及び就職活動の早期化を踏まえ、研究科へ進学する利点を早期に伝える。 卒業成果・制作発表会で研究科学生の成果を発信し、研究科の学び及び魅力を校内で理解してもらう取組を継続する。 ・特色ある学校づくりの推進 デジタル教育の柱としてBIM教育を推進する。 特に今年度は、AI技術の進展を踏まえ、利便性だけでなく、倫理及び情報の取扱いを含むAIリテラシー教育を建築系3学科の1年生へ展開している。 AI教育は導入段階であるため、成果については今後検証し、取りまとめる。 ・資格取得の推進 従来の選択授業としての資格対策を見直し、前期・後期の区分に縛られず、試験日程に合わせて集中的に実施できる講座形式へ移行した。学生の意欲が高い時期に集中して学習し、希望する資格及び習熟度に応じた支援を行う。 選択制から講座制に変えた成果については、今後も引き続き検証し、取りまとめる。 ・非常勤講師との連携の促進 クラウド上で学生の出席率及び担任の面談記録を共有し、非常勤講師が記入する授業日報も担任及び専任職員が確認することで、学習面・生活面の問題を早期に発見する。
--	--

・職業実践専門課程に係わる取り組みの促進

企業と連携した授業・プロジェクト及び建設現場等の見学を継続し、新たな企業連携実習も検討する。

職員研修においても企業との連携を継続し、現場見学等を実施している。本委員会からの意見をカリキュラム及び学生指導へ反映する。

・進路指導の重点

就職活動の早期化に対応し、1年生の10月から職業理解及び進路指導を開始する。担任と進路指導室が連携し、インターンシップは学生の希望に応じて個別に勧める。

就職だけでなく、研究科への内部進学も進路の選択肢として示し、計画的な進路選択につなげる。

建築系の運営について（建築系主任 太田育子）

「令和8年度 建築系の運営について」に基づき、建築系各学科の教育活動及び運営状況について説明があった。

・専任教員の強化について

1クラス1担任体制を目標として、専任教員の募集を継続している。現状は平上職員が2クラスを担当しているため、学生一人ひとりの状況をきめ細かく把握できる体制の構築に向け、引き続き採用活動及び教員体制の強化を進める。

・研修・イベントの充実について

・軽井沢合宿研修

令和7年度及び令和8年度とも予定どおり実施した。

・建築施工実習

富士教育訓練センターでの建築施工実習は、令和7年度に9月29日から10月3日までの5日間実施し、鉄筋、仮設及び足場組立て等を体験した。

令和8年度は10月13日から16日までを予定し、校内で事前教育を行った上で実習に臨む。

・秋のイベント

「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2025」

	令和7年度は実施済 「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2026」 令和8年度においては、10月22日から5日間の予定で行う。中央工学校OSAKA1号館は丹下健三氏の設計による建築物であり、同イベントの公開対象建築物として一般公開する。あわせて学生作品展を実施し、各学科・クラスで展示作品を行う予定。来場者に日頃の学修成果を発信するとともに、学生同士が作品を見て評価し合い、新たな気付き及び表現方法を学ぶ機会とする。 ・スポーツ大会 令和7年度は11月21日にバレーボール競技で実施した。令和8年度は11月20日（金）に同競技で実施する予定。 ・国内(東京)建築研修 令和7年度は、研究科の必修科目として11月5日から3泊4日で実施した。 令和8年度は11月4日から2泊3日で実施する。費用負担の軽減を考慮し、東京での研修への参加は希望制とする。ただし、国内建築研修は研究科の必修科目であるため、東京研修への不参加者は関西圏等で別途建築研修を行い、校内発表につなげる。 ・卒業成果・制作発表会 卒業成果・制作発表会について優秀作品6点を卒業作品集へ掲載し、在校生が次年度の制作目標を具体化できるよう活用する。 ・コンペ入賞者の増加を目指す 企業・団体が主催するコンペを授業課題と関連付け、学生の提案力及び表現力を高める。 ・デコルームデザインコンペ 〔主催：株式会社レンタックス、中央工学校OSAKA〕 令和7年度は、企業連携の取組として建築学科、住宅デザイン科及びインテリアデザイン科の2年生が取り組んだ。令和8年度も同様のコンペに参加し、建築学科の作品が1位となった。
--	--

	・第23回主張する「みせ」学生デザインコンペ 〔主催：公益社団法人商業施設技術団体連合会〕 令和7年度はインテリアデザイン科2年生が授業内で取り組み、優秀賞及び奨励賞を各1名が受賞した。令和8年度も応募を予定している。 ・第35回あすなる夢建築 大阪府公共建築設計コンクール 令和7年度は建築学科1年生が授業内で取り組み、1名が奨励賞を受賞した。 ・新たなコンペ 住宅デザイン科及びインテリアデザイン科1年生は、(株)ミラトップの協力による新たな課題を後期より実施する予定である。 「浴室＋1」をテーマに、図面、模型及びマテリアルボード等で提案を表現する。 ・B I M・A I 教育の推進 B I Mソフトの基本操作及び習熟度の向上を目的に、令和7年度からB I M利用技術者試験の対策講座を開講した。 A I 特別授業は、令和7年度に建築学科1年生をモデルケースとして実施し、令和8年度から建築系3学科の1年生へ展開した。 後期からは、就職活動におけるA I の活用についても授業を行う。 ・休・退学の防止 休学・退学の理由には、精神面の不調や学習目的を見いだせないこと等があるため、令和8年度6月から、学生相談室を開設し、月1回のカウンセリングを開始した。担任だけで抱え込まず、学生と担任の双方が相談できる体制とする。 課題提出の遅れが休学・退学のきっかけとならないよう、学内システムで出席状況を、Google Classroom で課題提出状況を早期に確認する。 また、非常勤講師を含む教員と学生との信頼関係を重視し、日頃から情報共有を行う。 ・クラス担任について 研究科1年：平上 秀明
--	--

	建築学科 1 年：北村 昇大朗 建築学科 2 年：篠崎 潤一 住宅デザイン科 1 年：平上 秀明 住宅デザイン科 2 年：豊田 昌代 インテリアデザイン科 1 年：福島 貴子 インテリアデザイン科 2 年：太田 育子 ・授業及び教室・施設について 1 号館に設置している大型プリンターの不具合により出力に時間を要していたため、機器を入れ替え、図面、プレゼンテーションボード及び作品制作に必要な出力環境を改善した。スクリーン等についても更新計画を進める。 ・資格取得について 令和 7 年度から、資格対策を選択制から講座制へ移行した。受講者数は若干減少したものの、目的意識を持って参加する学生が増え、出席状況の改善が見られる。入学時から資格の必要性及び仕事とのつながりを伝えることが重要であるとの説明があった。 B I M利用技術者試験について、1 年次の「建築・インテリア概論」で B I M実務者による講義を増やした結果、学生の B I Mへの関心が高まり、申込者は前年度の約 1 6 名から今年度は 3 3 名へ増加した。 ・研究科における二級建築士試験の合格率向上について 今年度は研究科在籍者 2 3 名中 2 0 名が学科試験に合格し、合格率は 8 7 . 0 %であった。出席率 9 0 %以上の学生は 2 0 名で、そのうち 1 9 名が合格した。出席率 9 0 %未満の学生 3 名のうち、合格者は 1 名であった。 これらの結果から、継続して登校し、授業を受けることの重要性を学生へ伝え、出席率の向上及び学習習慣の定着を図る。 ・就職率の向上 就職活動の早期化に対応し、進路指導担当者と担任が連携して学生の意識付けを行う。建築分野では履歴書だけでなくポートフォリオが重要であるため、早い段階から作成指導を行う。
--	--

4. 前期課題作品の視察（教科書・教材の閲覧）

建築系3学科の1・2年生の前期課題作品及び授業で使用している教科書・教材について、担当教員から説明があった。

建築学科1年生を北村職員、同2年生を篠崎職員、住宅デザイン科1年生を平上職員、同2年生を豊田職員、インテリアデザイン科1・2年生を太田主任がそれぞれ説明した。

5. 意見交換

【金沢 ちかこ委員】

- ・各学科の作品について、製図課題は細かな文字まで丁寧に書かれており、指導が行き届いていることが伝わった。今年は特に各学科の個性が明確に感じられた。
- ・インテリアデザイン科は、学生の興味や将来像が1年生前期の作品から読み取れ、目指す人材像を明確にした指導になっている。
- ・インテリアを室内だけで完結させず、設計・施工等との関係を含むトータルデザインとして学べる点に特色がある。セカンドキャリアや国際系学生に向けて、入学アプローチを広げられる可能性を感じた。
- ・最終成果のビジョンへ向け、複数の授業と課題をつなげていく教育の進め方が良い。

【宮田 哲委員】

- ・各学科の作品の質の高さが印象に残り、授業を通じた技能の蓄積が感じられた。
- ・二級建築士製図のトレース課題について、図面を写すだけでなく、描き始める前に法規、避難及び動線等を整理するエスキス教育が大切であり、資格試験で重要。
- ・CADやBIMを使用する場合でも、設計の考え方が整理されていなければ適切な図面にはならない。手描きは、空間を考え、試し、修正する基礎として、引き続き重視してほしい。

【田鍋 稔委員】

- ・1年生と2年生の作品を比較し、修学期間における成長の幅が大きいことが印象的であった。
- ・AIがBIMを操作・支援する技術が進展しており、将来的に

は、単純な作図やモデリングを担うCADオペレーターの役割が変化する可能性がある。学生には、ソフトの操作技能だけでなく、設計意図を理解し、出力内容の適否を判断できる力を身に付けさせる必要がある。

- ・実際に素材へ触れ、模型や作品を制作し、立体を身体で理解する経験は、AIによる不自然な出力や寸法感覚の誤りに気付くためにも重要である。
- ・学習につまずき、授業からこぼれそうになる学生も取り残さず、学習を継続できる指導方法及び支援体制が必要。今年度から学生相談室が開設されたことは大変喜ばしい。

【田中 由之委員】

- ・1年生の楽しい雰囲気が伝わる作品から、2年生の実践的・技術的な作品への成長が明確に感じられた。
- ・建築、住宅及びインテリアを分断せず、横断的に情報交換しながら総合して学ぶ成果が作品に表れている。
- ・AI等の道具が普及して表現の水準がそろそろほど、最終的な差はスケール感、計画及びコンセプト等の基礎に表れる。基礎教育を引き続き重視してほしい。
- ・企業連携及び資格取得支援に継続して取り組んでいる。就職後に資格を取得する場合にも、在学中に法規及び資格の基礎へ触れていることが有効である。

【岩尾 美穂委員】

- ・年々学生作品の水準が上がり、1年生の段階から各学科の特色が明確に表れている。各担当教員が学生から学科らしさを引き出している。
- ・現在の学生は真面目で優しい一方、実体験が少なく、自宅など身近な経験に発想が寄りやすい。建築・デザインを学ぶ学生には、興味の有無にかかわらず、流行や未知の場所・物事に触れ、発想の引き出しを増やす経験が必要である。
- ・インテリアデザイン科の作品では、外国を設定して文化や暮らしを調べた提案が見られた。知らない世界を調べることは経験を広げ、日本の住宅・空間の良さを見直す機会にもなる。
- ・2年生の総合課題で複数分野の教員が連携する取組は有意義である。設計変更により色彩やプレゼンテーションの検討時間が

不足しないよう、分野間の工程を調整することも重要である。

6. 事務連絡

原教務部長より、今後の日程について案内があった。

- ・令和9年2月17日（水）・18日（木）卒業成果・制作発表会
- ・令和9年2月19日（金）第2回教育課程編成委員会

7. 閉会の辞

檜崎教務室長が閉会の宣言を行い、令和8年度第1回教育課程編成委員会が終了した。

■配付資料一覧

- ・教育課程編成委員会委員一覧
- ・教育課程編成委員会規程
- ・令和8年度 教育基本方針
- ・令和8年度 建築系の運営について
- ・令和7年度 中央工学校 OSAKA 卒業作品集
- ・DIPLOMA2026 卒業作品集・活動報告
- ・中央工学校 OSAKA 通信

以上